

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいずジュニア花館		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 19日		令和8年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 19日		令和8年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の振り返りで出た児童への対応策や取り組みを、翌日には行動にうつすことができ、PDCAサイクルを意識して業務に向かうことができている。	ミーティング時に出た意見の中で、対応に困ったケースがあれば、スタッフ間で対応について検討し、改善策を決めて全スタッフが同じ対応を取ることができるようにしている。	改善策を行ってみたい振り返りも忘れずに行い、必要時は再検討する等、臨機応変に対応できる環境を整えていく。
2	教室が2部屋あり、児童が集中できる環境を維持した上で、状況に応じて活動を分けることができる。 (学習、運動で分けたり、運動をレベルに合わせて分割できる)	大集団が学習を行っている際など、別室で運動を行い、集団の集中が切れないよう環境面での配慮をしている。	個別訓練等、活動を分けて取り組める利点を活かし、個別支援の充実を図っていく。
3	幅広い年代のスタッフがいるが、意見を出しやすい雰囲気があり、お互い協力しながら仕事に取り組むことができている。	スタッフとのコミュニケーションを積極的に図り、離しやすい環境を整えている。	今後もコミュニケーションを積極的に図り、スタッフ一人一人の変化に気付くことができるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が広いことで、物品の管理や環境整備への意識をさらに高める必要がある。	物置室で何をどこに置くのかを提示していないことで、共通理解できておらず、必要な時にどこに置いてあるのか把握できていない。	物置室の整理を行い、物品毎に置く場所を決めて掲示していくことで、必要な時にスムーズに準備できるようにしていく。 →具体策として、物品の実物の写真を撮り、指定の場所に貼ることで、置く場所を統一する。
2	療育中のスタッフ間の連携が不足していることがある。	療育中に起きるその場で対応が必要なケースに対して、他スタッフへの報告が遅れることがあり、その場にいたスタッフのみが把握している状況が見られる。	児童のエラー時や体調不良時など、その場で判断し対応したことは、効率よくスタッフ間で連携しやすくするために、メモ用紙を活用し、記入後は申し送り事項を指定の場所に置き、各スタッフが状況を把握できるようにする。
3	児童の成長度合いの認識にスタッフ間でズレがあるため、定期的に確認する時間を設ける必要がある。	個別訓練で出来るようになったこと等、前回との比較の共有が不足していることがある。	日々のミーティングだけでなく、個別訓練での評価について話し合う時間も設けながら、児童の成長度合いについて全スタッフが共通理解できるようにし、児童の成長に合わせた支援ができるようにしていく。